

いちごで繋ぐ技術と人の輪

安田 豊さん（松山市）

いちごファーム北条 代表 1948 年生まれ

ホームページ <http://www.ichigo-farm-hojo.com>

フェイスブック <https://www.facebook.com/ichigofarmhojo/>



☆経営概況☆

いちご観光農園 4 か所（約 80a） 入園者数約 15,000 人/年
栽培品種は、紅い雫、あまおとめ、さがほのか、紅ほっぺなど 10 品種
労働力は、家族 3 人と従業員 3 人。

☆ここがポイント☆

■息子と一緒に観光農園を開園

県職員を退職し本格的に農業を始めた時、息子から「いちごの観光農園をしたい」と話があり、当時松山市内には、196 号線沿道にもいちご狩りができる農園がないことから、親子で取り組むことを決め、松山市北条地区に農地を取得し、2013 年 12 月 15 日（いちごの日）に観光農園を開園しました。

■栽培から 6 次化へ

栽培する品種にはこだわり、**県内で育成された品種を中心に揃え、来園者にゆっくり楽しんでもらえるよう、農園にはヤギやポニーを飼育**してます。また、車イスでも楽に収穫できるよう、2 段ベンチも備え、**障がい者にも優しい農園づくりを目指しています。**

夏目園では、いちご狩りのほかにスイーツを販売するいちご庵をオープンし、いちごのソフトクリーム、スムージー、いちご大福、夏場はいちごシロップたっぷりのかき氷を提供しています。

■農業後継者の育成にも熱心

農業研修生も積極的に受入れています。県立農業大学校の学生及び特別支援学校の生徒の**農業実習の受け入れを行い**、農業に関心を持ってもらい、将来農業を目指す人が増えるよう努めています。平成 30 年には 3 名が新規就農し、イチゴ栽培に取り組んでいます。

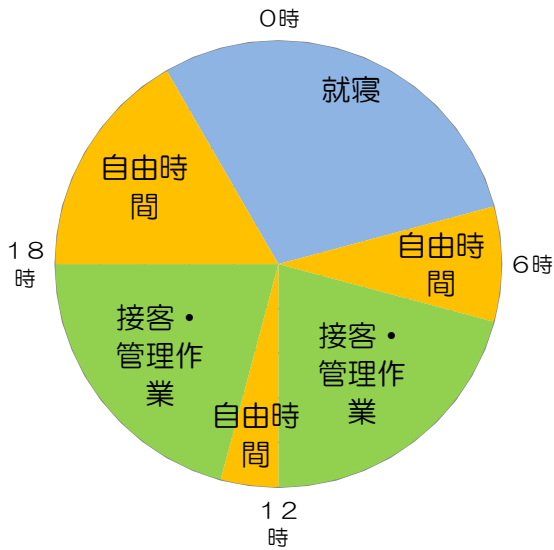


（地元保育所の園児を迎えて）



（196 号線沿いにある拠点施設“いちご庵”）

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

松山市内の自宅から、北条のいちご園に通勤農業をしています。開園中は、お客様の対応といちごの管理に忙しい毎日です。

いちご狩りのオフシーズンの休日には、趣味のバイクでツーリングを楽しんでいます。

地元の八反地営農組合の仲間とは、忙しい中でも週に1回は集まり、年に1回は視察研修にも行き、交流を深めながら、地域の後継者育成について語り合っています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期：開園時期】						
← 休日 →	→ 農作業・お客様の対応・いちごの栽培管理・観光農園PR活動・加工・販売 →					
【普通期：それ以外の時期】						
← 休日 →	→ 農作業・いちごの栽培管理・農園の整備・育苗・加工・販売 →					
			(仕事の進み具合によりツーリングにも行きます)			



(研修生たちと共に)



(農園のアイドルたち)

☆これからの夢や目指すもの☆

■愛媛産のいちご（紅い雫・甘雫姫）を知ってほしい。

県内で育成されたおいしいいちごがあります。このいちごをPRして、ブランド化をはかりたい。そのために、まずは大勢のお客様に知ってもらい、食べていただこうと、販売イベントに積極的に参加して、いちごやその加工品をPRしています。また、夏目園では、2月の愛媛マラソンに、「42,195kgのいちご」をランナーに配り、応援しています。

☆メッセージ☆

■農業は人づくり!! 後継者がいなければ農地は荒れます。

農業技術も伝承していかなければ、廃れてしまいます。後継者を育成することで、農業を盛り上げ、地域を盛り上げ、農地を守っていきましょう。